

# Roland

SINCE 1930







# SINCE 1930 The history of “Roland”

## 1930年、Rolandパイプ誕生

株式会社フカシロのスタートは1924年(大正13年)、当時の商号は「深代商店」。創業者である深代守三郎は、ヨーロッパから本格的に喫煙具の輸入・販売を始めました。1930年(昭和5年)に入り、パイプ製造を開始。国産初のパイプ煙草「桃山」が発売された1934年(昭和9年)には、大蔵省専売局からの依頼を受けて200本のパイプを製作。「桃山」とともに当時の著名人、有識者らに深代製パイプが贈呈されました。これが日本における本格的なブライヤーパイプ量産の始まりであり、このパイプが後にRoland pipeと呼ばれ、“Roland”は国産パイプの老舗ブランドとして親しまれていきました。



わが国初のパイプ煙草「桃山」。名称の由来は、安土桃山時代に日本にたばこが伝わった故事にちなんでいる

煙草展覧会の様子(『煙草展覧会記念図録』に収録)。右側に「ホルダ製造実演」、中央に「パイプ製造実演」、柱に「東京 深代商店出品」の文字が読める。



## “Roland”名前の由来

今や多くのパイプスモーカーに認知されている“Roland”という名は、平和主義、ヒューマンズムを代表するフランス文学者、ノーベル文学賞受賞者であるロマン・ロラン(Romain Rolland)からインスパイアされたもの。日々の安らぎと穏やかなひと時のために。憩いの一時を創りだすための喫煙具として、パイプブランド“Roland”が誕生したのです。



1975年「桜蘭土」創刊号。“Roland”は漢字表記。1979年までに第9号まで発行



1935年 煙草展覧会のポスター。嗜好の変化に応じて、昭和初期には新しい煙草が多く登場した



『煙草展覧会記念図録』  
(たばここの壺の博物館 所蔵)

## 革新と美を極める老舗の矜持

自然豊かな群馬県にある「深代喫煙具製作所」で造られる国産パイプ、“Roland”。深代一族によって受け継がれた伝統の職人技術と高品質追求の系譜から、現在も丹念に仕上げた製品が生産されています。ファーストパイプから、良き人生の相棒となる一本にまで想いを馳せ、「ジャパン・クオリティパイプ」“Roland”の名に込められた想いを、いつまでも受け継いでいきます。

## “Roland”とPipe Pleasure

「愛煙家の皆様に愛着を持って使い続けて頂きたい」という思いのもと、我々は新しいラインナップの製造に取り組みました。第一弾は、日本の美を意識したPIPEとなっております。“Roland”ネームも新しいPIPEをイメージしたデザインで刻印されております。是非、皆様のコレクションに加えて頂き「くつろぎの時」をお楽しみ下さい。

**Roland**  
SINCE 1930



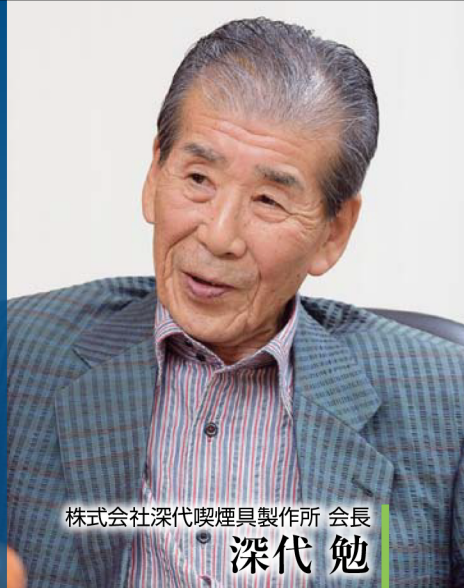


株式会社フカシロ 代表取締役会長  
**深代 徹郎**

#### profile

1940年6月16日生まれ。㈱フカシロ創業者である深代守三郎のもとに次男として生まれ、様々な舶来品に囲まれて育つ。青山学院大学卒業、米国カリフォルニア大学バークレー校留学を経て、1968年には社団法人日本ガスライター振興会の出先機関としてニューヨーク駐在を経験。喫煙具全般について、より造詣を深める。1981年に代表取締役社長に就任後、ラルス・イヴァルソンやスタンウェル社社長ポール・スタンウェルとの親交を深め、日本でのデนมールPIPEの普及に幅広く貢献する。2009年、代表取締役会長に就任。2011年には業界の発展に尽くした功績、産業振興功労により、旭日小綬章を受章。

Roland 80年の歴史から  
「本物のパイプを作りたい」。  
二人にはその志があった



株式会社深代喫煙具製作所 会長  
**深代 勉**

#### profile

1936年3月16日生まれ。創業者である(故)深代三之助の長男として、幼少期から喫煙具に囲まれた生活を送り、18歳から本格的に職人の道に入門。30代中頃には欧米を渡り歩き、海外のPIPE作りや素材を肌で学び帰国。以前から多くのPIPE・デザインを手がけていたが、1977年に待望の「Tsutomu」ブランドを発表し、国産ハンドメイド・PIPEの先駆者となった。長年の量産PIPE製作で培われた知識と経験を生かし、匠達が丹誠を込める作品は、趣味の道具として、多くの愛好家に親しまれている。



国産パイプの老舗ブランドとして多くの愛煙家に親しまれている「フカシロ」。同社を牽引する株式会社フカシロ 深代徹郎会長と国産ハンドメイド・PIPEの先駆けであり、日々研鑽を積み、技の錬磨向上に努める深代喫煙具製作所 深代勉会長。「ジャパン・クオリティー・PIPE」の黎明期を支えた二人の対談が実現した。

—— まずはお二人の考えるPIPEの魅力について

**深代徹郎会長**(以下徹郎会長)

端的に言えば、いちばん原始的な煙草を吸う道具。南米では祭祀を司るシャーマンが吸っていたという歴史もあるぐらいだからね。ひと言でいうと、男のダンディズムかな。初めはPIPEをくわえている姿が格好いいとか、バーで格好つけたいとかそんな動機で始める人が多いと思うんだけど。

(徹郎会長、勉会長のハンドメイドPIPEを手に取り)

**徹郎会長** これは綺麗なPIPEだね。

**深代勉会長**(以下勉会長) (黙って頷く)

**徹郎会長** 凄いいね。形もいいじゃない。実にい

い木目だ。

**勉会長** ちょっと大ぶりだけどね、なかなか今こういうの नाही でしょ。キズはないし、ピンホールもないからね。手によく馴染み、しっくりくる。

**徹郎会長** こんな見たの初めてだよ。希有なPIPEで貴重品だ。

**勉会長** 何百個とPIPEを作ってきたけど、このPIPEは今売りたいくないな。無傷っていうのは100本作ってもそのうち3、4本しかないから。

**徹郎会長** ここまでくと芸術作品の領域だね。しかも売りたいくないなんて言うんだから、もはや煙草を吸う道具じゃなくなっちゃう。困ったもんだ(爆笑)。





**勉会長** なにしろ、天然素材のブライヤー（主に地中海産のエリカ・アーボリア、ツツジ科の根）PIPEは、形だけでなく木目も面白いんです。ストレートグレイン（縦杣）とかパーズアイ（玉目）とかい

ので、カチカチした音なんてしない。PIPE（吸い口）は必ず使っているうちに湿気でガタガタになってしまう。その場合、樹脂でつくったものはそれでおしまいなんです。エボナイトは熱をかけると

柔らかくなるし、少し押すと膨らむから直すことができる。くわえた時の噛み心地はあきらかに違うし、何より優しいでしょ。

**徹郎会長** クラシックで使う楽器のマウスピースにも使われてるよね。演奏家のなかには、あそこのエボナイトじゃないとダメだと言い切る人もいるぐらい重要なパーツ。木目のブライヤーに目が行きがちだけど、マウスピースも同じように大事だよ。

**勉会長** 材質による口当りは影響が大きい。ブライヤーのシャンク

（煙道）との相性も作り込み次第でとても良いものになるからね。

**徹郎会長** ちょっとしたことでもPIPEの感じの良さ、くわえた時のバランスは変わってしまう。これこそハンドメイドならではの技術。

### ——好きなPIPEのシェイプについて

**勉会長** 握った感じとかね、好みがそれぞれあると思うけど。煙草を吸うだけのものではあったら、スタンダードなストレートかな。プリンス、アップル、ビリアード、ローデシアンベントといろいろな形があるけど、自分にマッチする形があるんだよ。あとは木目によるかな。徹郎会長はダブリンだよ。

**徹郎会長** あれはのみやすいんだよ。海外のものは大きいでしょ。私は背が小さいから、くわえたときのバランスが悪い。

**勉会長** 昔一緒にドイツに行った時PIPE屋さん何軒も見たけど、どのPIPEもデカかったよね。



ろいろあって、同じものは一つとしてない。定番のクラシックシェイプのような形から、木目やデザイン重視のハンドメイドPIPEまで。それはもう、奥深い世界。PIPEは全て、最後の工程は手仕上げ。だからどれも“手作り”になるんだけど、ハンドメイドの場合、プラトゥ（木目が出たブライヤー材）の選択から良い木目を出す削りまで、職人の手間がそのまま商品の価値として現れる。

（徹郎会長、もう1本のPIPEを手にとって）

**徹郎会長** こっちのサンドブラスト（ブライヤーに砂を吹き付け、柔らかい木部を落とす仕上げ）も、木目が同心円状に左右均等だ。こんなきれいなリンググレインは見たことないよ！

### ——“Roland”の加工技術について

**勉会長** 今どきの吸い口はプラスチックでしょ。初めからピカピカ光っていて、くわえるとカチンと歯にあたる。でもエボナイトは天然ゴムを使っている





**徹郎会長** そう。やっぱり向こうで作ってるものは大きいんだよ。彼らの身体が大きいからサイズ感がまるで違う。日本人にはデカ過ぎるよ(笑)。体形は大事だね。大柄な人は大ぶりな形、小柄な人には小ぶりなものが様になる。鏡を見るんだよ。くわえた時の自分の姿を見て、これは俺に合うと



判断するといひ。昔は店内に鏡が置いてあって、それをみてチェックしたもの。やっぱり日本人の体格に合うものが大事。そこまで気を遣っていくとハマってくる。自己を演出するツールになっていくんだよ。カッコいいな、俺似合うなど(笑)。

**勉会長** そうですよ。途中で壊れちゃうのもじゃないから。

**徹郎会長** ハマっちゃうと長続きする。道具としての愛着も出てくるけど、なによりもPIPEで吸う煙草はおいしい。煙草葉本来の純粹な旨み、味わいを楽しめる。コツをつかめば、ゆっくりと柔かい煙を楽しめるようになって、口腔喫煙(肺まで煙を吸い込まずに口腔空間で煙を味わう方法)の奥深い面白みがわかってくるんだよ。

**勉会長** 選び方としては、手持ちで吸うならビリアードは基本中の基本。曲がりがないので、吸ったり吐いたりする時に一番抵抗がないシェイプなんです。燃焼室であるボウル部から吸い口までが直線だから、煙草の味を感じやすい。ベントのようにプレイヤーの煙道を煙が曲がって通ることで、煙がまわって柔らかくなることもあるし。ひと言で

どれがというのは、やっぱり難しいね。逆に、曲がりがつくほど落ち着きが良くなるから、口にくわえて吸いたいならばベントのきついものもいいし。真っ直ぐなものだと歯に負担がか

かるからね。用途によってベストなシェーブがあるということ。シチュエーションによって使い分けできたらいいですね。

**徹郎会長** だいたい初心者がPIPEを買いにきたとき、真っ先に選ぶのは曲がり。ポパイのイメージがあるのかな。フルベントに近い形。

**勉会長** PIPEの味をおぼえたら、いろいろな形を選んで試してもらふことかな。100人いたら100人分の似合う形があるはずだから。

## ——メイド・イン・ジャパンへのこだわりについて

**勉会長** PIPEの本場(欧州)の方でも製造工場は減る一方ですよね。国内に入ってくるものでも、ブランド名は残っているがOEMで作っている工場がどんどん増えているような流れがあります。



**徹郎会長** うちの外注はしないしね。だからこそ、とことんものづくりにこだわりたい。製造過程にきちんと目を向けていれば、クオリティーも維持できる。隅々まで目の行き届く丁寧なものづくりは、やはり「メイド・イン・ジャパン」ならではのしょう。

**勉会長** 「メイド・イン・ジャパン」とは、日本から生まれる確かな技術に裏打ちされた日本製のものを指しますが、いろいろなものが溢れるこの時代に育った今の若者たちは「メイド・イン・ジャパン」のハイレベルな品質を知らない世代ではないでしょうか。だからこそ、その良さを感じてもらいたい。日本製だからこのPIPEを持ちたいとPIPEスモーカーに思ってもらえるように、これからも自分

は自分なりに仕事にこだわっていききたいですね。  
**徹郎会長** 日本製の良さを見つめ続けて、ずっと、「メイド・イン・ジャパン」を継続していききたいね。

# “Roland”と楽しむ 最高の一日

何気ない日常生活に、「Pipe」というアクセントを加えてみませんか？  
今まで見慣れていた景色が、少しでも変わるかもしれません。  
柔らかな煙で少しずつ、少しずつ楽しんでみてください。  
気がつくとリラックスしたあなたが、“Roland”と共にきつというはずです。

## 日常の中に「パイプ」というアクセントを



## これから パイプを始めようと考えていらっしゃる方々へ

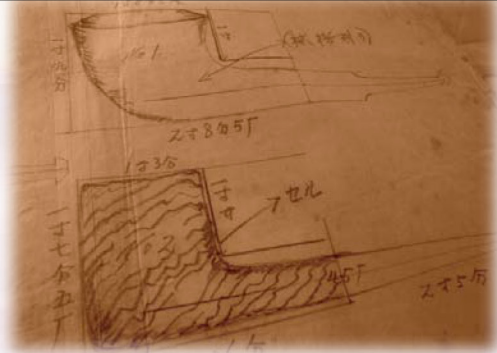
パイプと聞くと、皆さん敷居が高いとか難しそうとか考えられている方がいらっしゃると思います。でも、結局は煙草を吸うための道具です。別にお堅い作法がある世界ではなく、20歳さえ過ぎれば誰でも気軽に楽しめるモノなのです。

それに、昔と比べると煙草の葉の種類もかなり増えてきていますし、チェリーやバニラの様な甘い風味がつけられた物まであるので、色々な煙草の風味を楽しんでみてはいかがでしょうか？

撮影協力：ルーサイトギャラリー  
TEL:03-5833-0936  
<http://lucite-gallery.com>

株式会社 フカシロ 代表取締役社長  
深代 洋平





とっておきの休日に早起きをして  
愛犬と散歩し、昼下がりには  
お気に入りのコーヒーをお供にくつろぐ。  
また、読書を楽しみながらの  
大人の思惑の時など、  
いつもとちょっと違う最高の時間を  
発見できることでしょう。  
ただ、まわりの方への気遣いだけは  
どうか忘れずに。

## くつろぎのひと時を より豊かに



## ウォルター・ローリー卿とマナー

ウォルター・ローリー卿という人物こそが、今から500年程前の西暦1500年の終わりにイギリス貴族社会に“スモーキング”という文化を広めた伊達男です。エリザベス一世女王陛下に仕え、タバコに関しての様々なマナーも作り、そして広めました。この偉人に習い、「T.P.O」でPipeを使い分けながら楽しむのも、魅力のひとつです。

# 「年齢に関係なく大人の振舞いで、 “けむりくん”を嗜んで欲しいですね」

東京陶芸家

## 辻 厚成 氏

### profile

都内に窯を持つ数少ない陶芸家で、東京陶芸家として非常に魅力的な活動を展開している。日本犬研究家である齋藤弘吉と女性陶芸家として有名な辻輝子氏の子として、土と共に育ち、9歳で作品を発表後、12歳で窯を持ち、本格的な陶芸活動を始める。手捻(てびね)りと、半世紀に及ぶ作陶への探求によって生み出された釉薬による「厚成紅(こうせいあか)」を使った作品は、力強い生命力に溢れています。棟方志功氏や北大路魯山人、岡本太郎氏などとの交流のなかで育まれた感性は、陶芸のみならず「くつろぎ」を大切にするライフスタイルの実践により、多くの人々に影響を与え続けています。



©smart focus

—— 東京陶芸家として、こだわりのライフスタイルを持つ辻氏にとって、煙草の紫煙はどのような存在ですか

辻 厚成 氏 (以下辻氏)

PIPEやシガーは、「くつろぎ」を大切に考える私の中で大いに意味のある存在です。シガーを愉しむ時はコミュニケーション空間で人と人との繋がりを感じながら、紫煙の時を過ごす事が多いですね。

PIPEは、創作活動の息抜き等、自分という存在とゆっくりと向き合う時に愉しむ事が多いかもしれません。例えば、集中し夢中になって土と向き合い創作をしている時にPIPEやシガーで一息いれてみる。そうすると“けむりくん”が「ふっ」と違った視点で作品を魅せてくれることがあります。

—— 辻氏が良く使われる“けむりくん”というネーミング、素晴らしいと思います。

辻 氏 PIPEやシガーというと、中には非常にブルジョワジーなものだと思ってしまい、敬遠してしまう人もいます。しかしPIPE煙草も様々な種類があるし、シガーもシガリロの様に気軽に愉しむことのできる小さなサイズのものもある。畏まったスタイルではなく、もっと気軽に多くの人にPIPEやシガーとつき合ってもらいたい。それもあって“けむりくん”です。

私は1961年に日本貿易振興会(JETRO)のお誘いで、メキシコへ日本の文化派遣要員として長く

滞在しましたが、ドライシガーから始めました。当時、メキシコには日本では見られない様な大きな煙草Shopが沢山ありました。PIPEは少数派でしたが、シガーを吸っている人々も皆、おいしそうに紫煙を煙らせているのを見て、自分なりに工夫をして愉しんでいる内にすっかりはまってしまいました。

—— PIPEやシガーには道具を愛でる、愉しむという陶器に通じる魅力もあると思うのですが

辻 氏 そうですね。陶器は眺めて良し、使って良し、いかに気持ち良く心地良く「愛でられるか」という点でPIPEに通じるものがあるかもしれません。手に取って使うという事は、他のアートとも違ってプラスαの素晴らしさがある。他の「道具」の側面を持つものも一緒かもしれませんが、長い年月に渡って使い込まれ、愛でられていると「育っていく」という世界がある。これは、陶器にもPIPEにも共通する世界です。PIPEもハンドメイドという点で、作り手の気持ちがダイレクトに反映する事も陶器の世界と似て面白いですね。

—— 辻氏のPIPEコレクションは素晴らしいと思いますが、お気に入りの1本を教えてくださいませんか。

辻 氏 40数年前に妻の多香子が結婚前にお土産に贈ってくれたフランスGBDのPIPE。クリアマウスピースで、非常に美味しい煙草と一緒にプレゼントしてくれたんです。ただ、そのPIPE煙草はもう手に入らなくなってしまって。もうかなり長いこ



と同じ味を探していますが、中々出会いませぬね。

**多香子夫人** 爽やかな甘い香りが素敵で、主人も大変気に入ってくれて、一時はその煙草ばかりすってました。

**辻氏** 隣人の方に漂うPIPE煙草の香りで、私の在宅が分かったと言われるくらい愛用していましたね。

—— お二人の思い出の香りになっているとは、素晴らしいです。紫煙がお二人の絆にもなっているのですね

**辻氏** そう、「けむりくん」を通して、人と人が繋がっていくことこそ、良いことだと。昔の様な時代よりもむしろ、今の時代こそ必要なものかもしれません。私も様々なPartyを主催、参加しますが皆、子供の様に嬉しそうに紫煙を煙らせています。ゆとり、「くつろぎ」の大切な時間です。

**多香子夫人** 近年、インターネットが普及していますが人と人の繋がりが薄くなってきている様な気がしてとても残念です。勿論、周りの方への気遣いの上でPIPEやシガーを愉しむという事は人と人との距離を縮める非常に良いものだと思います。主人がアトリエで若い人達にPIPEやシガーの存在や扱い方を教えてあげる事があるのですが、皆さんとても嬉しそうに目を輝かせて楽しんでいらっやいます。そういう何か夢のある素晴らしいものなのではないでしょうか。

**辻氏** もともとは、煙草は歓迎の意を示すのにも使われていた歴史もあります。今は世界的に煙草というものの捉え方、方向付けが間違っているような気がしてとても残念です。口腔喫煙というスタイルの違いもあります。我々愉しむ側のマナーも、勿論大切ですが。大人の振舞いで、「けむりくん」を嗜んで欲しいです。若い方も年齢を気にせずに紳士になったつもりで。あと、太陽の下で気取らずに愉しむのもお勧めしたいし、生活に密着したスタイルの提案もしていきたいです。なぜなら、紫煙は「何か」を思い起こしてくれるし、「何か」に向かっていく力を持っている素晴らしいものだと思いますから。

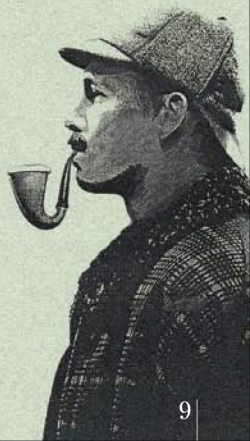
## 名探偵シャーロック・ホームズとパイプ

シャーロック・ホームズと言えば、イギリスの探偵小説家・コナン・ドイルの作品に必ずでてくる名探偵。知らない人を探すのも難しいでしょう。その名探偵のトレードマークと言えば、パイプです。それもキャラバッシュ・パイプが度々登場します。

キャラバッシュ・パイプとは、ひょうたんを素材として使い、近年では、タバコを詰めるボウル部分にメシャム(海泡石)を使用したものが一般的です。

ホームズが難事件をパイプの紫煙と共に立ち所に解決していく様子は、「まだらの紐」、「緋色の研究」等でお楽しみ頂けます。

ペルシャの室内履物にも大切なパイプ煙草を隠していたホームズ、やはり難事件解決の鍵は「パイプ煙草の紫煙による冴えた思考回路」だったのではないのでしょうか。







# Roland

SINCE 1930

愛煙家の満足のために……

“Roland”の  
多彩なヴァリエーション



## 歴史の中で引き継がれてきた 「スタンダード・ライン」

使い勝手の良い、定番シェイプを揃えています。ファースト・パイプからベテラン・スモーカーの方まで満足頂ける、丁寧な造りが愛着へと繋がるラインナップです。

## 大きいエポーションの選定にこだわり 作られる「ミディアム・ライン」

ブライヤーの木取りをサイズの大きいものに絞り、丹念な研磨作業と入念なシャンク加工と仕上げにこだわっています。スモッキング・ツールとして大きな満足を得られます。

## 継承されるクラフトマンシップと アーティスティックな仕上げの 「プレミアム・ライン」

日本のPipeファクトリーの先鞭を切った「Roland」。80年の歴史の中で育まれてきた、ジャパंकオリティーと様々な芸術性あふれる仕上がりラインナップ。

手に取り、使い込む程に手離せなくなる逸品を是非、コレクションに加えて頂きたいです。



 **fukashiro**

〒111-0051 東京都台東区蔵前1-2-1

TEL: 03-3851-9211

URL: <http://www.fukashiro.com>